

Ⅲ 資本等

1 資本金の状況

機構の資本金の状況は、次のとおりである。

区 分	令和3年度期首	増減額	令和3年度期末
畜産勘定	29,965,359,951円	—	29,965,359,951円
野菜勘定	260,739,653円	—	260,739,653円
肉用子牛勘定	328,562,593円	—	328,562,593円
合 計	30,554,662,197円	—	30,554,662,197円

2 財務の状況

(1) 会計処理

機構は、法人の財政状態及び運営状況を明らかにするため、独立行政法人会計基準に沿った会計処理を行っており、決算に係る財務諸表は、監事及び会計監査人による監査を受け、農林水産大臣から承認された後、機構ホームページに掲載するとともに、官報に公告し、かつ、各事務所において一般の閲覧に供している。

機構の会計は、業務ごとに経理を区分し、畜産勘定、補給金等勘定、野菜勘定、砂糖勘定、でん粉勘定及び肉用子牛勘定の6勘定を設けて整理している。

機構の各種業務を執行した結果、損益計算において利益が生じたときは、前事業年度から繰り越した損失を埋め、なお残余があるときは、その残余の額は、当該勘定において積立金として整理することになっている。一方、損益計算において損失が生じたときは、積立金を減額して整理し、なお不足があるときは、その不足額は、繰越欠損金として整理することになっている。

(2) 損益等

ア 畜産勘定

当勘定においては、肉用牛肥育及び肉豚経営安定交付金の交付業務、畜産業振興事業に対する補助業務、畜産物に関する情報収集提供業務、畜産関係団体に対する出資に係る株式又は持分の管理業務の経理を行っている。

当勘定の損益は、収益が、調整資金戻入益247億6678万9000円、畜産業振興資金戻入益542億9127万9000円、運営費交付金収益6億2616万3000円、過年度補助事業費返還金16億5334万4000円、賞与引当金見返に係る収益及び退職給付引当金見返に係る収益4282万1000円、運用利息、雑益等1億9674万2000円を加えた815億7713万9000円で、費用が、肉用牛肥育及び肉豚経営安定交付金等事業費101億11万5000円、畜産業振興事業費706億7935万円、情報収集提供事業費2億8694万9000円、これらに係る一般管理費等4億8906万5000円を加えた815億5547万9000円となったことから、当期利益は2166万円を計上した。この結果、積立金は1億7893万5000円となり、前中期目標期間繰越積立金8億6998万7000円と合わせて利益剰余金は10億7058万2000円となった。

調整資金の収支は、収入が、政府からの交付金407億3096万7000円、支出が、肉用牛肥育及び肉豚経営安定交付金等事業費94億7962万7000円、畜産業振興事業費150

億円、情報収集提供事業費 1 億 4345 万 2000 円、一般管理費 1 億 4371 万円であった。

一方、畜産業振興資金の収支は、収入が、政府からの交付金 56 億 794 万 6000 円、生産者等からの拠出金 56 億 3728 万 1000 円、運用利息、雑益、過年度補助事業費返還金、調整資金運用利息等による収益の受入が 16 億 5490 万 2000 円、支出が、肉用牛肥育及び肉豚経営安定交付金等事業費 4 億 6643 万 1000 円、畜産業振興事業費 554 億 3417 万 2000 円の補助、生産者への拠出金の無事戻し 117 億 5903 万 4000 円を行ったほか、これらに係る一般管理費等が 4557 万 7000 円であった。

令和 3 年度の畜産業振興事業は、酪農の経営安定対策等 28 項目の事業に対して補助金を交付するとともに、前年度以前に補助金として交付した肉用牛肥育経営緊急支援事業、畜産経営力向上緊急支援リース事業、国産食肉流通合理化緊急資金支援事業、畜産収益力向上緊急支援リース事業及び畜産収益力強化緊急支援事業に係る返還金等 10 億 1795 万 4000 円については、不要財産として国庫納付した。

イ 補給金等勘定

当勘定においては、加工原料乳の生産者補給交付金等交付業務、輸入乳製品の売買業務の経理を行っている。

当勘定の損益は、収益が、農畜産業振興対策交付金戻入益 265 億円、輸入乳製品売渡収入 108 億 6451 万 2000 円に運用利息、雑益等 2257 万 3000 円を加えた 373 億 8708 万 5000 円で、費用が、加工原料乳生産者補給交付金等交付事業費 381 億 6670 万 2000 円、輸入乳製品買入費 87 億 1279 万 2000 円、これらに係る業務費及び一般管理費等 4 億 422 万 9000 円を加えた 472 億 8372 万 3000 円となったため、前中期目標期間繰越積立金 98 億 9663 万 8000 円を取り崩したことから、当期利益は 0 円となった。この結果、前中期目標期間繰越積立金は 71 億 8089 万 6000 円となった。

ウ 野菜勘定

当勘定においては、指定野菜価格安定対策事業、契約指定野菜安定供給事業、特定野菜等供給産地育成価格差補給事業、緊急需給調整事業、端境期等対策産地育成事業、野菜に関する情報収集提供業務の経理を行っている。

当勘定の損益は、収益が、野菜生産出荷安定資金戻入益 220 億 7525 万 5000 円、端境期等対策産地育成事業補助金戻入益 6 億 5999 万 2000 円、運営費交付金収益 5 億 2580 万 4000 円、賞与引当金見返に係る収益及び退職給付引当金見返に係る収益 8117 万 5000 円、運用利息、雑益等 2 億 2871 万円を加えた 235 億 7093 万 5000 円で、費用が、野菜価格安定対策事業費 200 億 5376 万 7000 円、野菜農業振興事業費 26 億 7898 万 4000 円、情報収集提供事業費 3770 万 3000 円、これらに係る業務費及び一般管理費等 7 億 2578 万 1000 円を加えた 234 億 9623 万 5000 円となったことから、7470 万 1000 円の当期利益を計上した。この結果、積立金は 6 億 3898 万 3000 円となった。

野菜生産出荷安定資金の収支は、収入が、政府からの補助金 137 億 7000 万円、生産者等からの拠出金 92 億 2563 万 2000 円、過年度補助事業費返還金等 82 万 7000 円、支出が、交付金等 220 億 7608 万 2000 円、負担金返戻 4 億 1518 万 5000 円、国庫納付金 1636 万 7000 円であった。

エ 砂糖勘定

当勘定においては、輸入指定糖の買入・売戻業務、異性化糖等の買入・売戻業務、輸入加糖調製品の買入・売戻業務、甘味資源作物の交付金交付業務、国内産糖の交付金交付業務、砂糖に関する情報収集提供業務の経理を行っている。

当勘定の損益は、収益が、糖価調整事業収入405億8108万9000円、甘味資源作物・国内産糖調整交付金戻入益107億6031万6000円、運営費交付金収益8億7177万5000円、資産見返運営費交付金戻入等1264万円、賞与引当金見返に係る収益及び退職給付引当金見返に係る収益7853万9000円、雑益等356万8000円を加えた523億792万6000円で、費用が、糖価調整事業費608億7603万1000円、情報収集提供事業費1億87万3000円、これらに係る業務費及び一般管理費等4億1759万3000円を加えた613億9449万8000円となったことから、90億8657万2000円の当期損失を計上した。この結果、前期繰越欠損金361億9805万1000円と合わせて、繰越欠損金は452億8462万3000円となった。

オ でん粉勘定

当勘定においては、輸入指定でん粉等の買入・売戻業務、でん粉原料用いもの交付金交付業務、国内産いもでん粉の交付金交付業務、でん粉に関する情報収集提供業務の経理を行っている。

当勘定の損益は、収益が、でん粉価格調整事業収入80億793万5000円、運営費交付金収益2億7858万円、資産見返運営費交付金戻入393万6000円、賞与引当金見返に係る収益及び退職給付引当金見返に係る収益5186万9000円、運用利息及び雑益41万1000円を加えた83億4273万1000円で、費用が、でん粉価格調整事業費93億7790万5000円、情報収集提供事業費3335万8000円、これらに係る業務費及び一般管理費等1億6845万9000円を加えた95億7972万3000円となったため、前中期目標期間繰越積立金12億6096万6000円を取崩したことから、2397万4000円の当期利益を計上した。この結果、積立金は4億3153万9000円となり、前中期目標期間繰越積立金10億8045万6000円と合わせて、利益剰余金は15億1199万6000円となった。

カ 肉用子牛勘定

当勘定においては、肉用子牛の生産者補給交付金交付業務の経理を行っている。

当勘定の損益は、収益が、運営費交付金収益4923万8000円、賞与引当金見返に係る収益及び退職給付引当金見返に係る収益299万4000円、運用利息及び雑益等181万3000円を加えた5404万5000円で、費用が、肉用子牛生産者補給交付金5025万8000円、生産者積立助成金11億7979万5000円、これに係る業務費、業務委託費及び一般管理費等11億3667万3000円を加えた23億6672万6000円となったため、前中期目標期間繰越積立金19億9420万8000円全額を取崩したことから、3億1847万3000円の当期損失を計上した。この結果、利益剰余金は33億8605万円となった。